

令和6・7年度始良・伊佐地区研究協力校「魅力ある学校づくり」 霧島市立溝辺小学校研究公開

(令和7年11月28日公開)

1 研究主題

誰もが楽しく通える「魅力ある学校づくり」を目指して
～魅力ある授業づくりを中心とした「居場所づくり」と
児童の主体的な活動を通した「絆づくり」～

2 主題設定と研究仮説

溝辺小学校は、不登校児童が増加傾向にあることと基礎学力の定着が不十分な子供がいるという実態から、「楽しく登校して、笑顔で過ごし、満足して下校する子供」を目指す子供の姿として設定しました。そして、生徒指導提要で示されている生徒指導実践上の視点を踏まえて次の2つの研究仮説を立てました。

(1) 研究仮説1 居場所づくり（魅力ある授業づくり）

生徒指導実践上の4つの視点を踏まえた授業づくりに取り組むことで、子供が安心して意欲的に学ぶことができ、自己肯定感や自己有用感、充実感を得られる授業になるのではないかと。

(2) 研究仮説2 絆づくり（子供主体の活動）

子供主体の活動を工夫し、子供が互いに認め合う場を計画的に取り入れることで、自己理解や相互理解が深まり、楽しみにして、行きたくなる学校になるのではないかと。

3 公開授業

(1) 第2学年 算数科 単元名 「かけ算九九(3)」

本単元は、これまで学習してきた乗法を生活場面とのつながりを意識するようしながら、数量の関係に着目し、乗法に関して成り立つ性質を見いだしたり、活用したりすることを目指して設定されました。

本時では、乗法の決まりを使って2つのかたまりに分けたり、全体から空白部分を引いたりすることで、芋の数を求める学習を行いました。指導にあたっては、日常生活の場面に即した、課題設定をしたり、複数の解法から、自分に合った解法を子供が選択する工夫を取り入れたりしました。授業の終末では、本時で分かったことだけでなく、友達の考え方や、自身の学び方等について振り返る姿が見られました。



【第2学年の授業の様子】

(2) 第6学年 学級活動 題材名「わたしの悩み」

本題材は、自己開示に対してやや苦手意識をもっている子供がいるという実態を踏まえて、「悩みを、適切に対処することの大切さを理解するとともに、友達の悩みの聞き方について考え、解決に向けて話し合うことができる」姿を目指して設定されました。

公開授業では、「心と体の健康は繋がっている」ことを風船を使ったミニレクレーションを通して子供が実感した後、子供は自身の悩みの対処法について

友人や先生の対処法を参考にして考えました。また、子供は、友達からの悩みの聞き方、受け止め方について、ロールプレイをとおして学習して、相談しやすいと感じる友達の聞き方や受け止め方のよさを、自身にも取り入れようとする姿がよく見られました。



【第6学年の授業の様子】

4 これまでの研究の成果と課題（研究紀要より）

(1) 居場所づくり（魅力ある学校づくり） ○…成果, ●…課題

- 導入で子供の生活に密着した実物や写真を用いることにより、興味をもたせることができた。
- 導入でミニゲーム（体を動かすこと）を取り入れることにより、発言しやすい明るい雰囲気ができ、スムーズに授業に入ることができた。
- 解決方法や発表方法を自分で選択することで、自分の得意な内容や方法から学びを深めたり、進んで活動したりするようになった。
- 解決方法を選択し、自力解決できるようにはなったが、複数の解法で解くまでに至らなかった。今後、複数の解法にチャレンジするように声をかけるとともに、見届けを確実にを行う必要がある。
- 協働的な学びを実現するにあたり、発達段階を踏まえた話し合い（聞き合い）のスキルをさらに充実させる必要がある。
- 「わがとも」での振り返りは、分かったことやできるようになったことなど学んだ内容のことに留まり、どのようにして分かったのか、友達の考えのよさについてなど、学び方や友達のよさについての深い振り返りができなかった。

(2) 絆づくり（子供主体の活動） ○…成果, ●…課題

- 令和6年度は、代表委員会・児童総会の一連の活動で「全校遊び」が決定し、計画・実施・振り返りを子供が主体となって進めることができた。
- 令和7年度は「活気のあるあいさつ日本一の学校をめざすには」に取り組むこととなり、「季節ごとのイベント」や「ハッピーボックス」など子供たちがワクワクするような取組とお互いのよさを認め合う取組を進めることができた。
- 授業時数を確保する必要がある。
- カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、学校全体で組織的・計画的に位置付けて、より効果的に実践していく必要がある。